

## 施設紹介

(臨床環境11：44～45，2002)

# 国立療養所南岡山病院 アレルギー科

岡田 千春

当院は、2001年4月北里研究所病院の化学物質過敏症（Multiple Chemical Sensitivity：MCS）対策クリーンルームと同等の性能の病室を開設しMCSの診療を始めました。開設にあたり石川哲先生、宮田幹夫先生にはいろいろとご指導いただき、何とか1年診療して頂くことができました。

我々の施設は、図1に示すように入院病室1室のみで運用されています。残念ながら、外来対応のクリーンルームは予算の制約のため設置できま

せんでした。稼働後実際に環境測定を行った結果は、図1の図中に示しているように病室がもっとも化学物質が少なく前室、浴室の順に濃度が上昇しています。ホルムアルデヒドの厚生労働省・WHOの基準値が80ppb、トルエンが $260\mu\text{g}/\text{m}^3$ であることを考慮すると満足できる状況だと考えています。

実際の診療は、図2に示すスタッフで行われており、医師としては成人を岡田、木村が、小児を

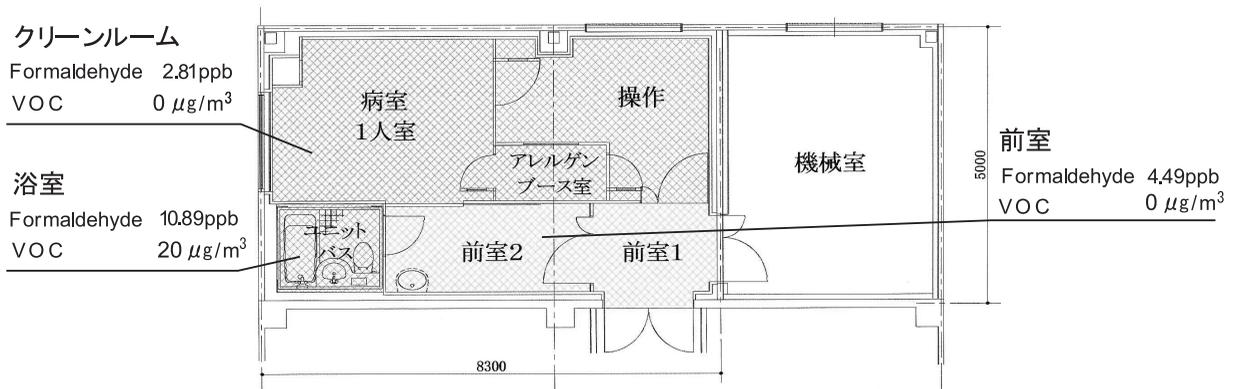
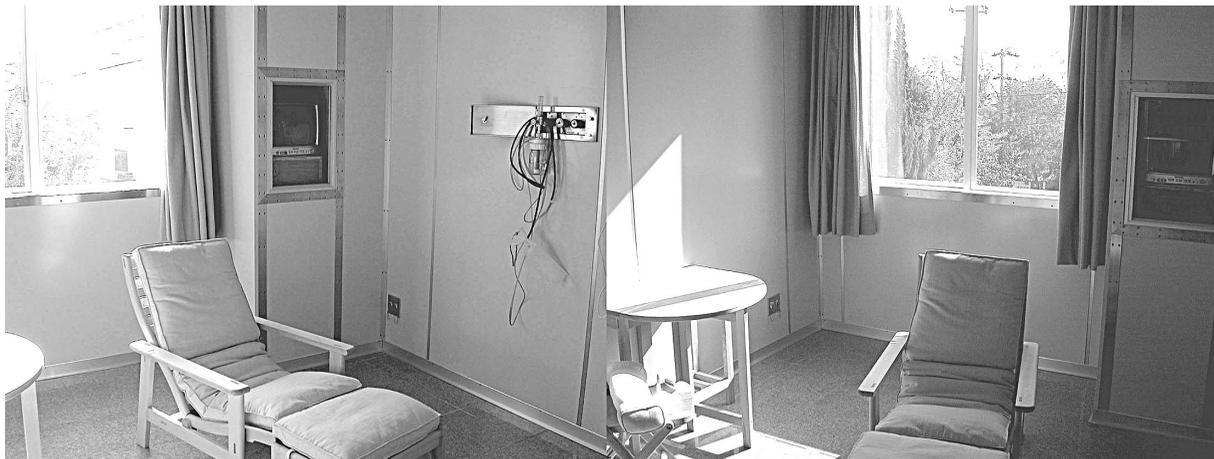


図1 環境アレルギークリーンルーム

春摘(写真に写っていません)が担当しています。看護スタッフは、池上看護師長以下10名で担当していますが、北里研究所病院と異なり医師、看護師ともに専属スタッフは配置できていません。この点が、患者様からも改善の要望が強いところですが、残念ながら当院の現状では無理といわざるを得ません。



図2 環境アレルゲンクリーンルームスタッフ

診療実績ですが、昨年の4月から今年の3月までに22人のMCS疑いの患者様が受診されました。当初はクリーンルームのみの診療でしたが、何回にもわたるテストにて安全性が確認されチャレンジ用ブース室の本格稼働が可能となった7月よりは、原則的に被擬化学物質の負荷テストを中心にMCSの診断を行ってきました。その結果、3種類の化学物質のうちいずれかに対する過敏反応が陽性と判定されたのは、テストを受けられた方の66.6%にのぼり、我々が当初予測した以上に化学物質過敏症の患者さんが存在することが判明してきています。まだまだ微力ではありますが、今後は診断だけでなく現在のビタミン投与、酸素吸入中心の治療に少しでも改良点を追加できるよう努力していく所存です。

岡田千春

国立療養所南岡山病院アレルギー科医長

〒701-0304 岡山県都窪郡早島町早島4066

TEL:086-482-1121, FAX:086-482-3883

E-mail:okadac@sokayama.hosp.go.jp